



**ISAP 2022**

International Forum for Sustainable Asia and the Pacific

**IGES**  
Institute for Global  
Environmental Strategies

# 街と人が育つ機会としての気候市民会議 Citizens' Climate Assembly as steps toward growing societal capabilities

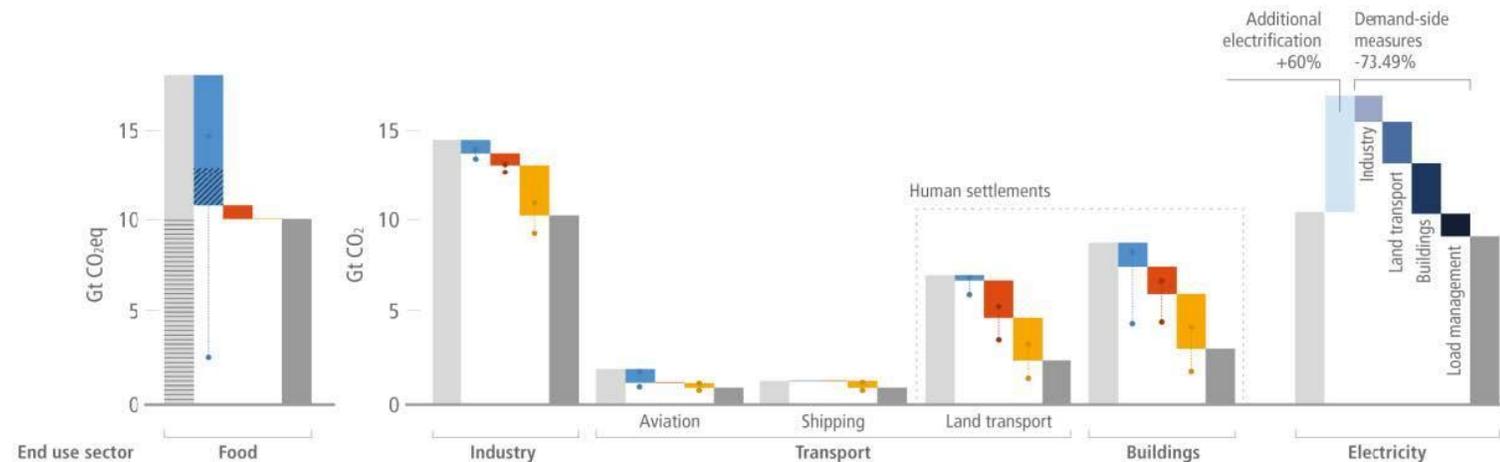
**Atsushi Watabe,  
Programme Director, SCP Area, IGES**

# はじめに

- 暮らしの脱炭素化を「私のもの」にするという問題
  - 1.5°Cライフスタイルの経験
  - 「まともな暮らし」を実現するシステムの変革とは
  - 街と人が育つということ
- 川崎と所沢の市民会議
  - ふたつの違い
  - 街と人が育つ という目でみる

# 暮らしの脱炭素化

## ① 需要側の緩和

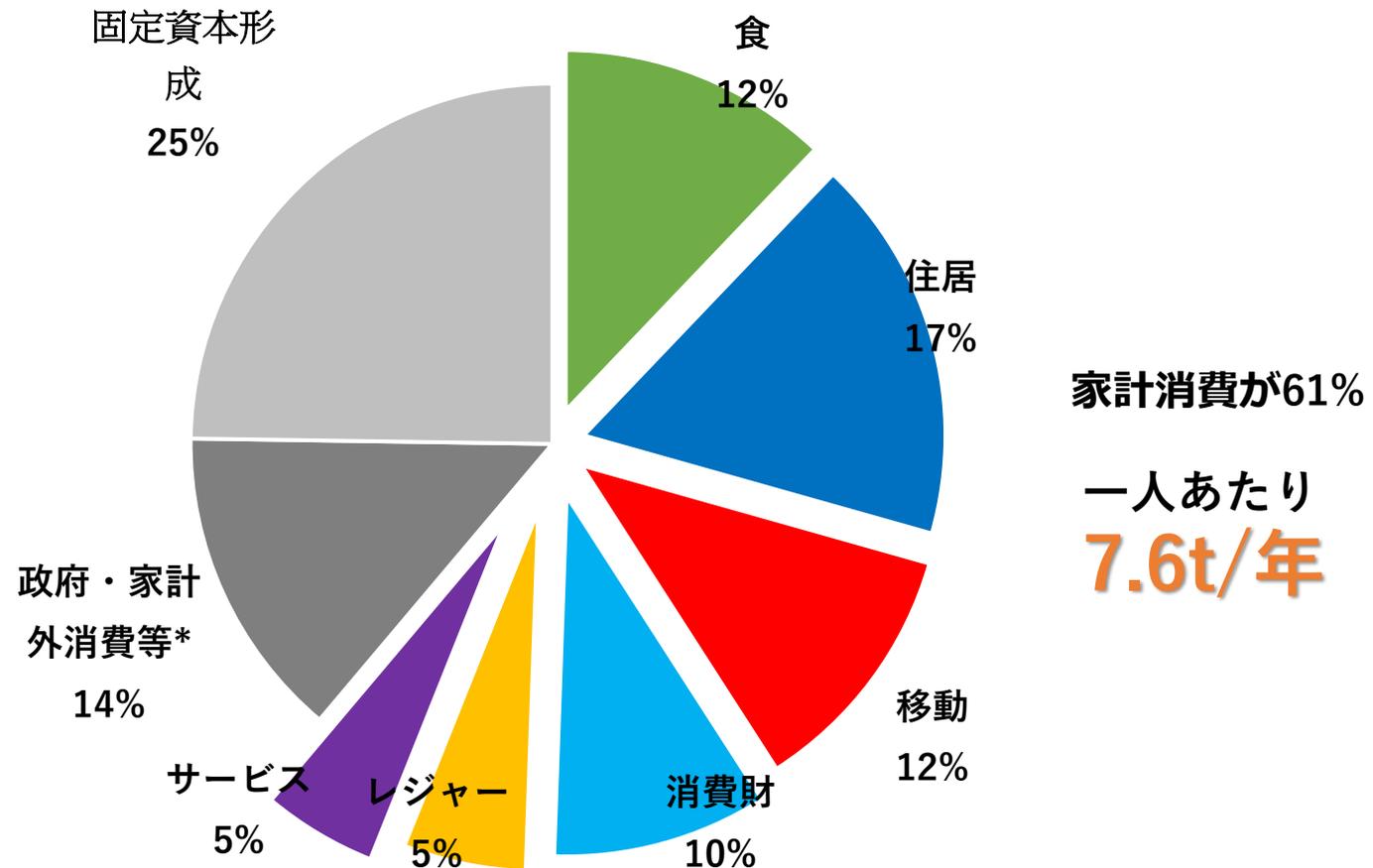


Demand for service	Nutrition	Manufactured products	Mobility	Mobility	Mobility	Shelter
<b>Socio-cultural factors</b>	Shift in dietary choice with reduced animal protein; avoid food waste; avoid over-consumption	Avoid short life span products	Avoid long haul flights; shift to trains wherever possible	Currently not applicable	Teleworking or telecommuting; active mobility such as walking and cycling	Social practices in energy saving; and lifestyle and behavioural changes
<b>Infrastructure use</b>	Enhance the role of choice architectures & information; financial incentives; waste management; recycling infrastructure	Reuse and recycling	Currently not applicable	Currently not applicable	Public transport; shared mobility; compact city; spatial planning	Compact cities; built environment; living floor space rationalisation; architectural design; feedback control systems
<b>Technology adoption</b>	Currently not applicable	Access to materials-efficient services; access to energy-efficient and CO <sub>2</sub> -neutral materials	Adoption of energy-efficient technologies; technologies with improved aerodynamics	Adoption of energy-efficient technology/systems	Electric vehicles; efficiency technologies	Adopting energy-efficient solutions; shift to renewables



# 暮らしの脱炭素化

## ②暮らしとカーボンフットプリント



\*政府・家計外・非営利団体消費・在庫純増の合計

出所:南斉規介(2019)産業連関表による環境負荷原単位データブック(3EID) 国立環境研究所; Nansai et al. (2020) Carbon footprint of Japanese health care services from 2011 to 2015. Resources, Conservation & Recycling, 152.; 総務省(2015) 平成27年産業連関表に基づき発表者作成

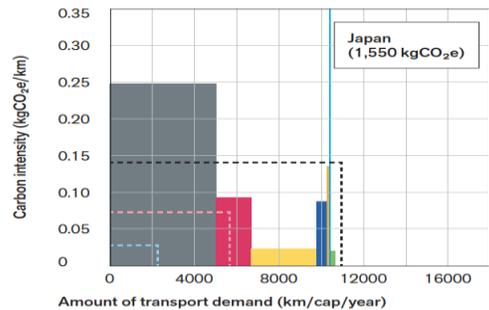
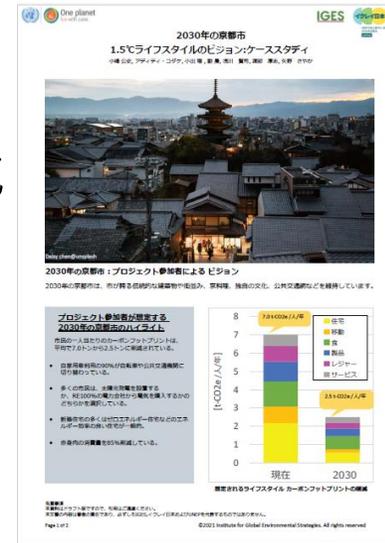
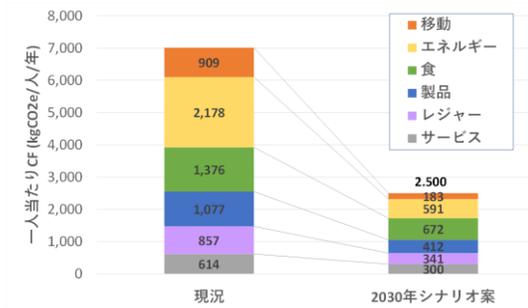
# 暮らしの脱炭素化

## ③1.5°Cライフスタイルプロジェクト

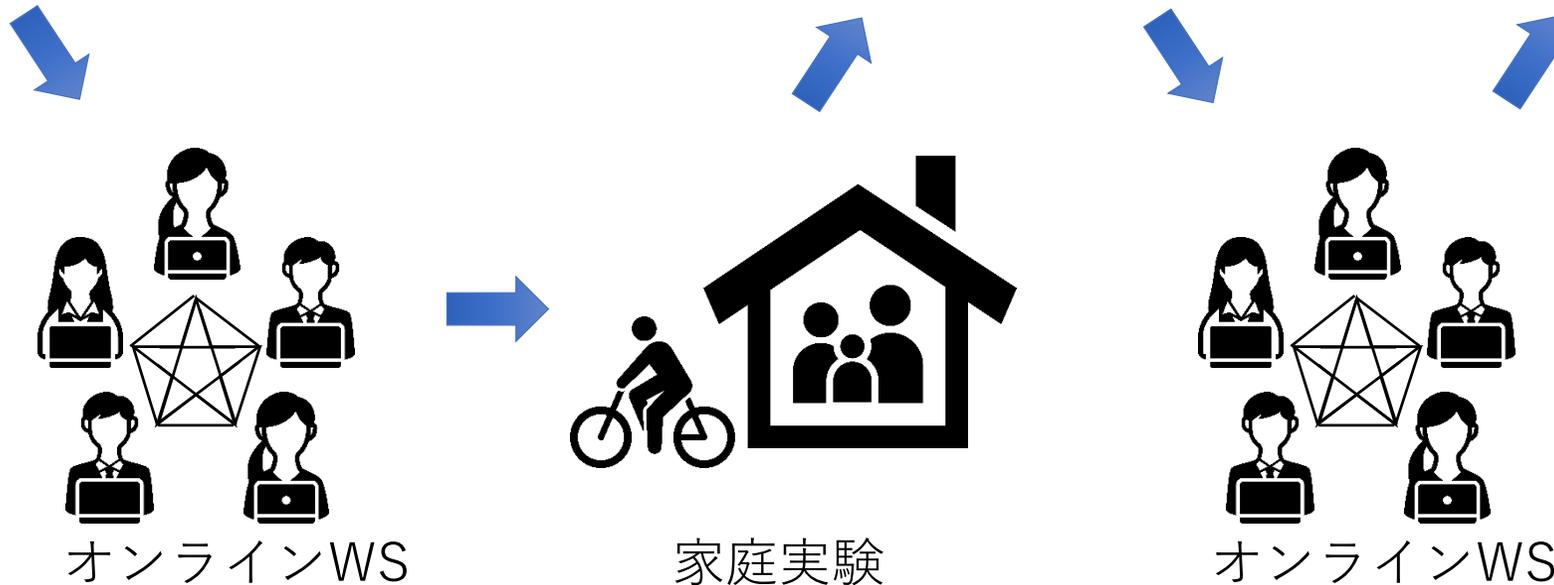
### WS素材開発



### 都市ビジョン作成



フットプリント推計



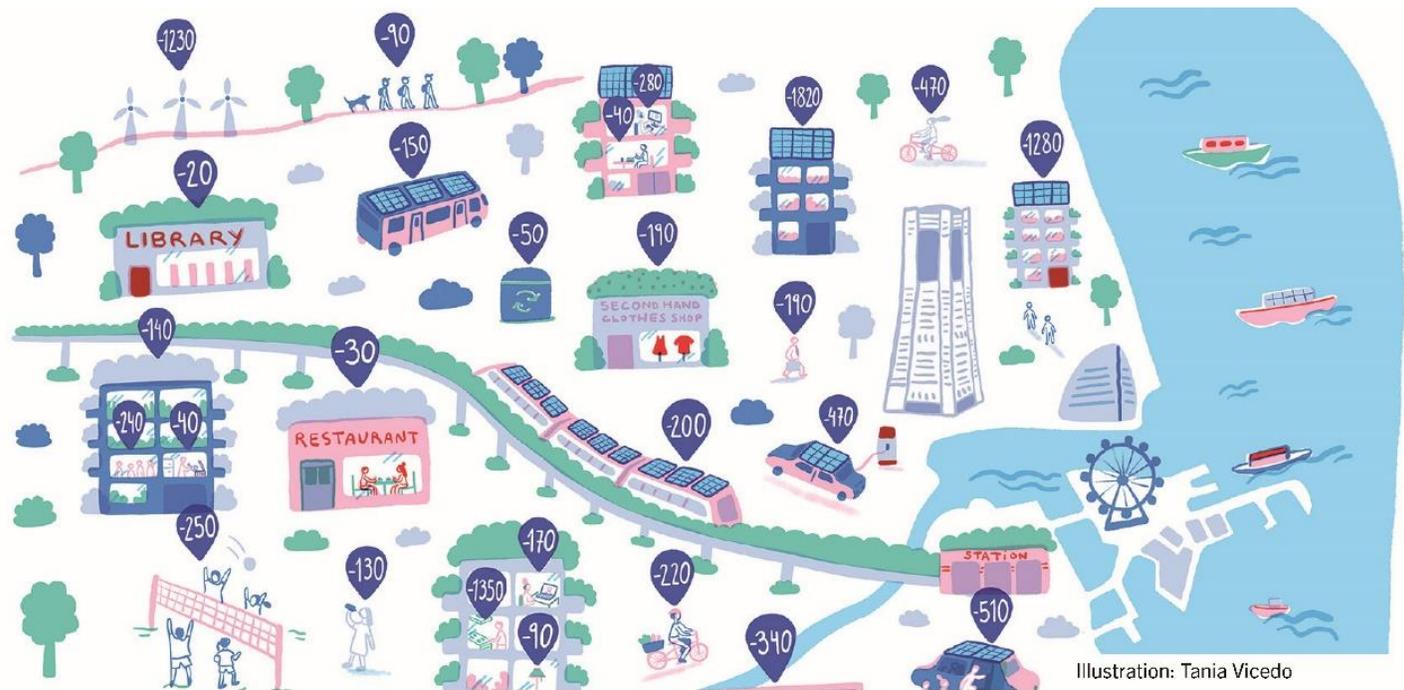
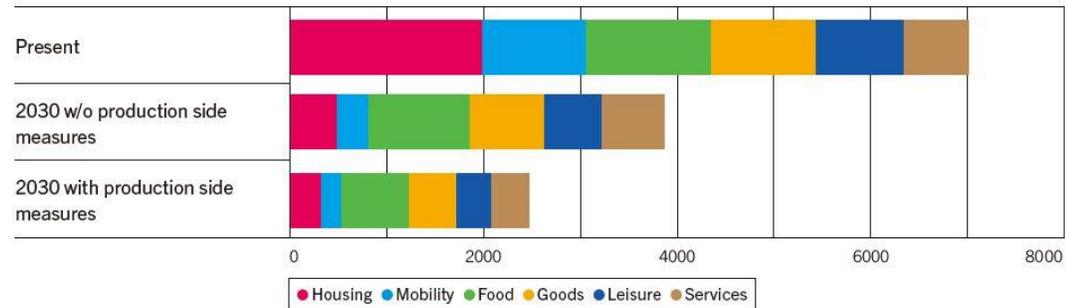
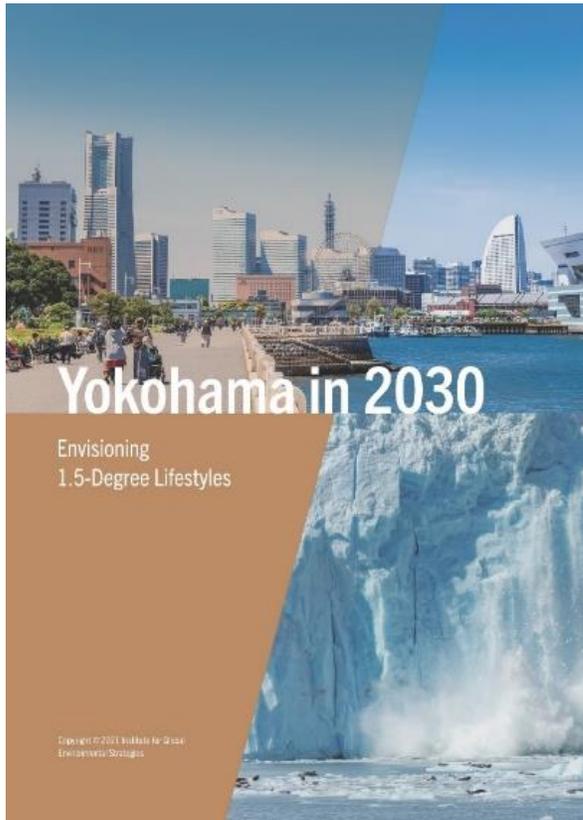
オンラインWS

家庭実験

オンラインWS

# 暮らしの脱炭素化

## ③1.5°Cライフスタイルプロジェクト



# 暮らしの脱炭素化

## ④脱炭素型行動の「良いこと」と「難しさ」

### 過疎化進行中の地方都市の場合

分類	脱炭素型行動の「良いこと」	脱炭素型行動の「難しさ」
公共交通・自転車などを使う	家族に頼らずに移動できる	鉄道もバスも本数・路線が減り不便
低炭素型自動車に変える	ガソリン代が節約できる 夢がある、将来は考えたい	補助金があっても高い 充電設備が見当たらない
ライドシェアリング・カーシェアリング	朝の渋滞を回避できるかも 高齢者の移動手段になるかも	使い方がわかりにくい 市街地以外では使えない
職住近接	自由時間が増える	家を買ってしまった人には難しい 学校が統廃合されているので…
肉食を減らす	新しい食材を試せる	満足感がない 代替食品が手に入らない

= 脱炭素型サービス供給システムを作る上での課題

# 暮らしの脱炭素化

## ⑤ サービス供給システムを見直す機会

### 1. 地域や家族の将来に必要なサービスを考える

✓ 「将来のお年寄りの足は必要」

…将来、地域や自分の暮らしに困難が生じる可能性を考える

→ 今までと違うサービスを考える

### 2. 別の可能性を体験する

✓ 「自転車で通学したら気持ちよかった、でも夜は街頭がなくて怖い

✓ 「家の簡易断熱DIYをやってみた。家族が協力し、楽しかった」

✓ 「代替肉を試したが水分が多くうまくない、調理法を知りたい」

…自分でできることと、助け・協力が必要なことを考える

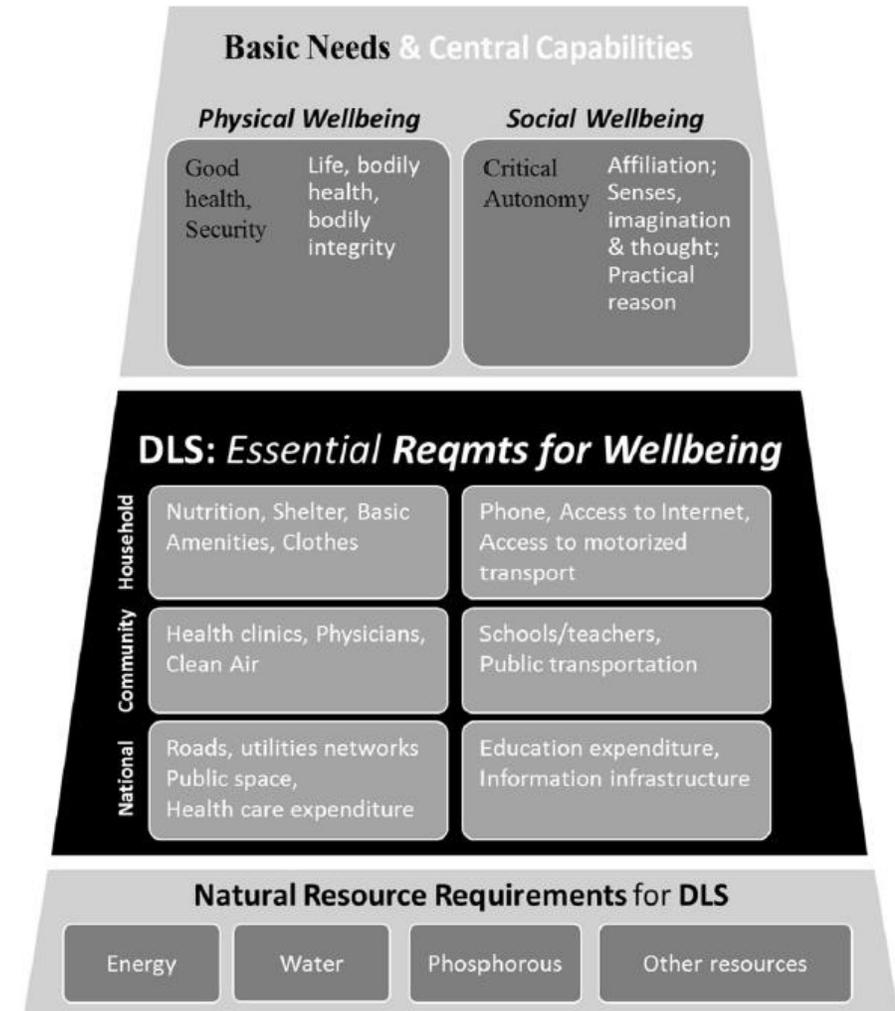
# 暮らしの脱炭素化

## ⑥ 「需要側での緩和」の意味

### • Decent Living Standards

- 基本的ニーズの享受
- 社会参加
- それらを可能にするサービスやインフラ

\* Decent = 人並みの、まともな、穏当な

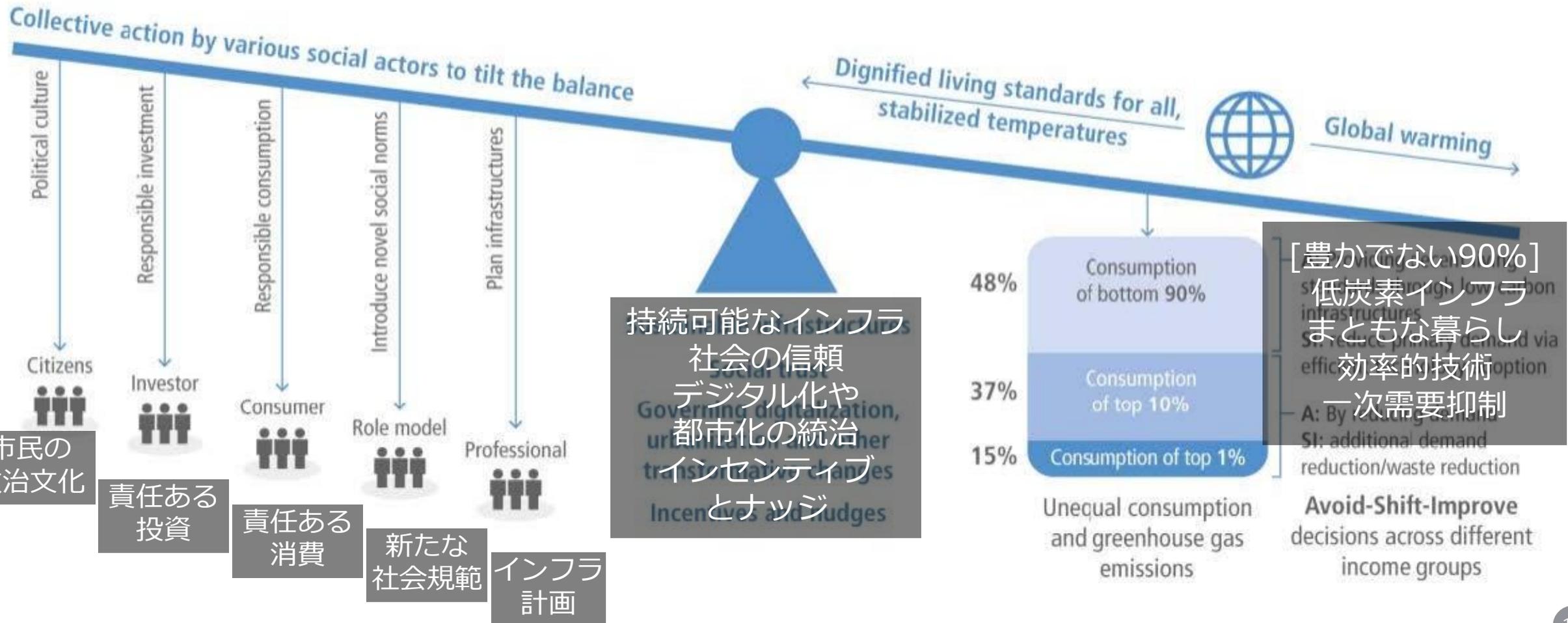


Rao & Min 2018 Decent Living Standards: Material Prerequisites for Human Wellbeing

# 暮らしの脱炭素化

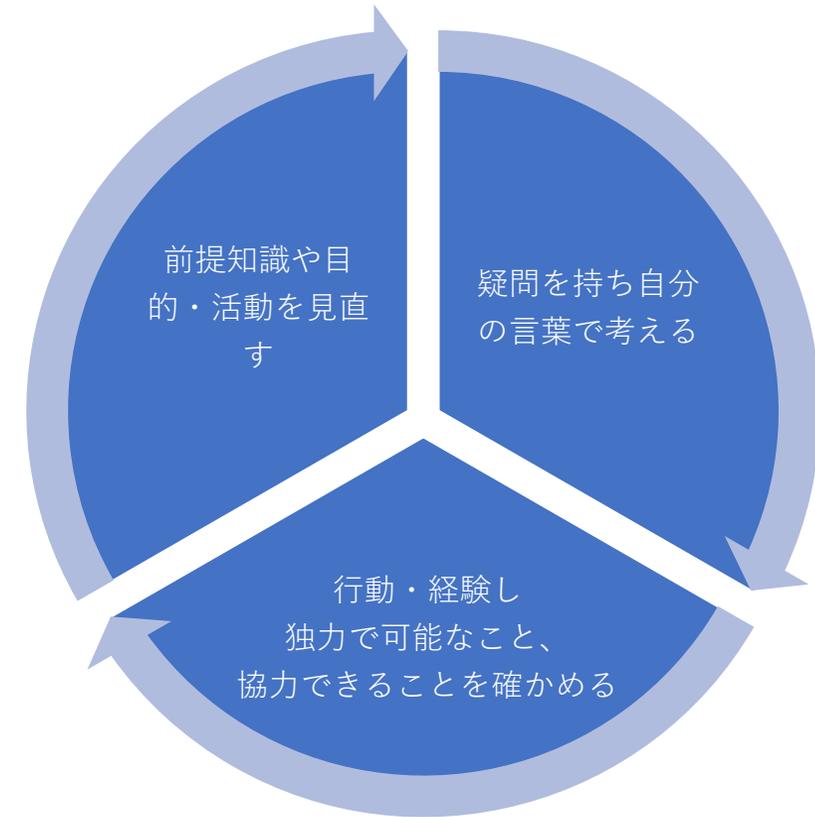
## ⑥ 「需要側での緩和」の意味

Tilting the balance towards less resource intensive service provisioning



# 「まともな暮らし」を実現する脱炭素社会 人、社会、企業、行政に必要な能力とは？

1. 身の周りのことと気候変動などとの  
つながりに関心と疑問を持ち、  
自分の世界の言葉で考えてみる
2. 自分が行動できる範囲、できない範囲  
と、その理由を確かめる
3. うまくいかないことから学び、前提  
知識、目的や活動を見直し続ける



市民に知識を与え主体的に行動してもらうのではなく  
街の将来を考え作る能力を市民・行政・専門家の共同で一緒に育む

# 人と街を育む という観点での気候市民会議

## ①概要

	脱炭素かわさき市民会議	所沢まちごとゼロカーボン市民会議
時期	2021.05-10	2022.8-12
参加者	無作為抽出した市民3201名に参加依頼、 75名が参加	無作為抽出した市民4500人のうち約 30名が参加
運営者	主催：脱炭素かわさき市民会議 実行委員会 協力：川崎市 NIES IGES 地球温暖化防止全国ネット 川崎信用金庫	主催：所沢市 協力：早稲田大学人間科学学術院
形態	オンライン（第6回は対面）	対面@市役所大会議室
テーマ	移動 住まい 消費	製品 食 エネルギー 住まい 移動
成果	77の具体的提案を含む提案書を作成 市長に提案書を提出	

# 人と街を育む という観点での気候市民会議

## ②特徴 a) テーマの扱い

	脱炭素かわさき市民会議	所沢まちごとゼロカーボン市民会議
<b>テーマ</b>	移動 住まい 消費	製品 食 住まい 移動…
<b>扱い方</b>	テーマごとの部会を設置 複数回にわたり同一テーマを議論 会議以外の時間も専門家と議論し 具体策を提案 →全体討議で共有 →最後に投票で優先課題を決定	全員が全テーマに関与 各回の最初に専門家が話題提供、 全グループが議論 →具体策の立案は今後
<b>考えられる効果</b>	個別テーマを深く理解し、地域にあった具体策を提案できる	参加者は脱炭素化の全体像を理解しやすい

# 人と街を育む という観点での気候市民会議

## ②特徴 b) 行政の関わり方

脱炭素かわさき市民会議		所沢まちごとゼロカーボン市民会議
立場	協力者	主催者
実施中の 参加・支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>市としては距離を置く</li> <li>ただしファシリテーターの一部は市や関連団体の職員</li> <li>同時進行で市の温暖化計画を準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営に直接関与</li> <li>大学等と協力した企画立案</li> <li>専門家への依頼</li> <li>参加者招聘</li> <li>ファシリテーション</li> </ul>
その後の 関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>同時に作っていた市の計画と市民会議の提案はほぼ同じ方向</li> <li>市民会議の提案はより具体的「市の計画にも一部取り入れ」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市の計画策定の一貫として開催</li> </ul>

# 人と街を育む という観点での気候市民会議

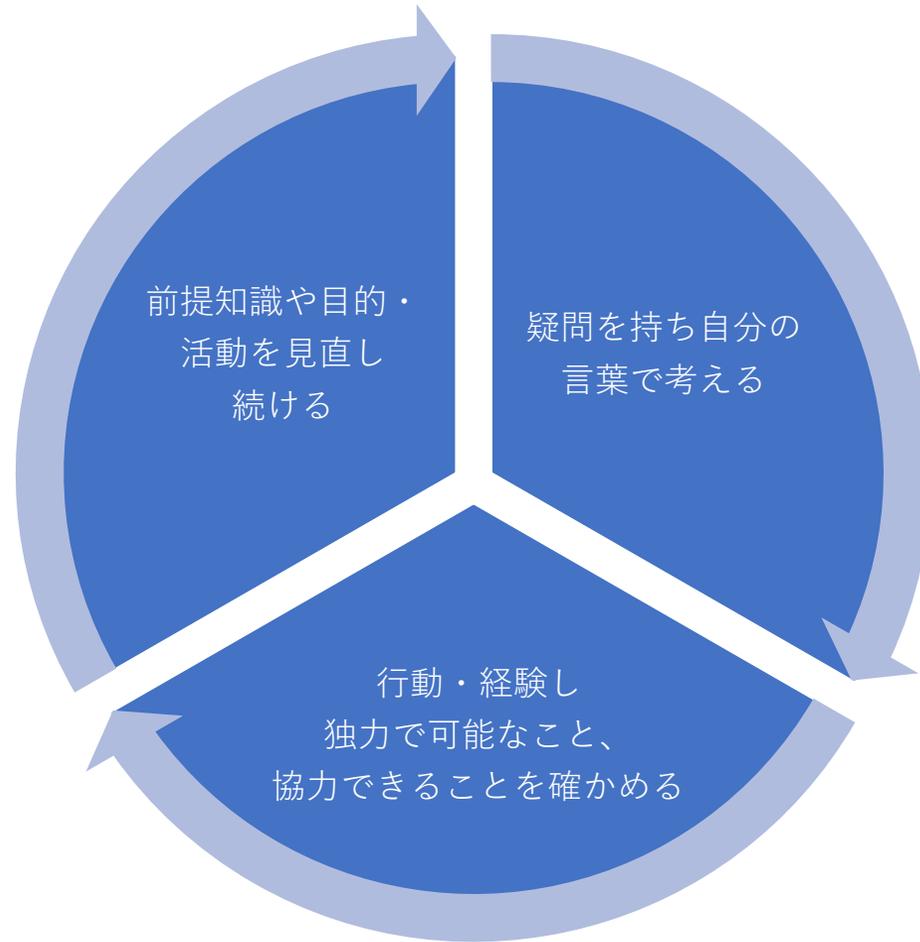
## ②特徴 c) 完了後の展開（スケーリング）

脱炭素かわさき市民会議	所沢まちごとゼロカーボン市民会議
<ul style="list-style-type: none"><li>参加者のうち<b>29</b>名と運営側<b>12</b>名が、会議終了後も連絡を取り合うプラットフォームを形成</li><li>コンポスト推進、<b>EV</b>普及促進、地域ビジネスとの協働などを実施</li></ul>	
<ul style="list-style-type: none"><li>地区とテーマを限定した、より濃密な会議を準備中</li></ul>	
<ul style="list-style-type: none"><li>市と市内企業が協力し市民の行動変容を促すアプリやイベントを開発</li></ul>	

# 人と街を育む という観点での気候市民会議

## ③ 「人と街を育む」ループ

交流と行動を続け、  
**会議の結論を「最終」にしない**



テーマの深い理解／地域の全体像の理解  
学んだこと・疑問を交換し  
**この街にとっての気候変動を共有する**

市民主体／行政主導…  
どちらの場合も**知識＋感情の交換**が不可欠

**ご清聴ありがとうございました。**  
Thank you very much for your attention.